

OB会会計報告

(平成 6年 1月 1日~平成 7年 6月30日)

会計 23期 鳥越

《 収 入 の 部 》

35周年記念事業繰越金	707,169
OB会費納入(214名)	1,935,000
寄付、カンパ等	44,313
預金利息	1,224
計	2,687,706

《 支 出 の 部 》

OB会報(やまざと) No.1制作費	65,852
〃 郵送料	84,930
〃 No.2制作費	125,939
〃 郵送料	105,360
平成 6年度小屋作業差し入れ	50,000
OB・現役(3年)懇親会	100,712
21期村中さん香典	10,000
その他諸雑費	24,611
計	567,404

《 差 引 剩 余 金 》

収 入 の 部	2,687,706
支 出 の 部	567,404
差 引 合 計	<u>2,120,302</u>

以 上

主将の挨拶と部の近況

38期 佐川 貴久

主将になってまず初めに思ったことは、果たしてワンゲル主将とは？ということでした。

昔はどうだったかわかりませんが、今のワンゲルでは、普段主将がやらねばならない仕事は、具体的に「これだ」というものはありません。というか、一人勝手にそう思っています。主将よりも、L会やP審の議長、あるいは各山行のリーダーの方が、多分たいへんでしょう。

結局のところ、今現在においてはあまり自覚も仕事もないまま、平和に主将を務めていますし、今後もそんなに意識しないで気楽にやっていけるだろうと、楽観的に考えています。

主将が頼りなければ頼りないなりに、部員の各人がしっかりしてくれるだろうし、それぞれが自分のやりたいことをやっていくことが、部の活性化にもつながっていくのでは…と思っています。

さて、部の近況ですが、今年は新入生の出入りが激しく、なかなか数が確定しなかったのですが、現在の所12名ということではほぼ落ち着いたと思います。

ふだん具体的に何をしているのかということですが、トレーニングは、月・水・金の週3回角間周辺を30分ほど走って、その後軽く筋トレをやっています。練習量は城内の頃とそれほど変わっていませんが、雨天時のトレーニング法がまだ確立されておらず、雨の時は思いつきで屋根のある所を探して、そこでできることを何かしています。

そして練習が終わって午後7時からは部室でL会・P審・L権審議などを行います。以前の部室に比べると、蚊や虫がいなくなったのはいいですが、音楽系のサークルがちょっとうるさい。



ところで、ワンゲル部員の経済状況はというと、特に新入生にとっては非常にきつい。まず部費と保険で7000円、その他山行では、高三郎新トレ、第1回トレ山、第2回トレ山、夏合宿本番とでそれぞれパーティーにより多少異なりますが、4000円、3000円、7000円、20000-30000円くらいかかります。この辺は下界で生活していても食費などはかさむので、それほどの負担とはなりません。問題はやはり装備で、全部揃えると7-9万円くらいかかってしまいます。一気に揃えるのはやはり厳しく、OB、先輩、あるいは辞めてしまった人などから借りたり、あるいは譲ってもらったりしながら、ゆっくり揃えていきます。

その他、学生生活で、角間に移って変わったことといたら、やはり交通が不便になったこと、学生街が小立野から旭町周辺に移動してきたこと、2年前から学部へ上がる際の仮進級制度ができ、留年が減ったなどです。

今年は角間にすべてが移ってから2年目で、まだワンゲルも大学も発展の途中です。

もし金沢に来る機会がありましたら、山の中ですが、是非ワンゲルの部室にも立ち寄ってみて下さい。

第38期運営方針は、37期と比べて変わった所は、(2)年間行事に関して、冬、春合宿の参加が義務ではないとしたこと、及び、5月の末に雪上訓練を取り入れたことです。この他は基本的に大きな変更はありません。以下、全文を掲げます。

第38期ワンダーフォーゲル部運営方針

(1) P. W.

P.W.とは、行きたい者が、メンバーを募り、行きたい場所へ行くというもので、基本的には部の活動の一貫ということになるが参加はあくまで部員個人の任意によるという点において、行事とは一線を画するものである。また、部の活動として、最も理想的、かつ自然なものであり、主眼とすべきものである。

<P.W.に関する規定>

- 1 : P.W.として活動を行う場合には、P.W.審議会上に計画書を提出し、その許可を得なければならない。
- 2 : 1回生のP.W.への参加について、山行は夏合宿以前、山行以外のものは、新入生トレーニング山行以前であれば、原則として許可しない。P.W.が山行に当たるかどうかの判断は、P.W.審議会上に委ねる。
- 3 : 冬山、春山における行事のいずれにも参加していない者は、原則として冬山、春山の参加は認めない。
- 4 : アイゼン、ピッケルを使う見込みのあるP.W.への参加は原則として春合宿参加者に限る。
- 5 : 全てのP.W.において、コースや目標、メンバーについては山行経験、体力等、また、リーダーについては、リーダー経験等の諸条件から判断したパーティー編成をP.W.審議会上で検討する。
- 6 : P.W.は先程述べたように、行きたい者が行きたい場所へ行くというものであるため、参加者のうちリーダー権のある者なら誰でもなれるということは、いうまでもない。発案者がそのままリーダーになるという形式にも幾つかの利点はあるが、特にそれにこだわる必要はなく、パーティー内で意欲のある者、最も適した者がリーダーになるのが望ましい。

7 : 一つのP.W.がP.W.審議会上で許可を得た場合、その発案者は速やかに、そのP.W.の目的、行程、内容、メンバー条件等の詳細を、他の部員全員に知らせなければならない。

8 : P.W.の計画は、顧問、及び学生係の許可を必要とする。

(2) 年間行事

行事は山行など部の活動において、全部員にとって必要性の認められるものについて行う。すなわち経験を積み、技術を修得するといったことがその後の活動の基礎になるのである。したがって行事に参加することは全部員の義務であり、発案段階から実施に至るまで、関与する部員全てに積極的に参加及び協力の義務がある。年間行事の計画は顧問教官及び学生係の許可を必要とする。

但し、冬、春の合宿、そして今回から行われることになった雪上訓練はとりあえず年間行事に含まれるが、この3つについては例外的に義務とはしない。

(3) ワンデイハイク

ワンデイハイクの基本的性質はP.W.と何ら変わらない。十分に安全であると判断できるものについて、部内の判断によって認められる活動形態である。

<ワンデイハイクに関する規定>

- 1 : ワンデイハイクとしての活動を行う場合はP.W.審議会上に計画書を提出し許可を受けなければならない。通例、ワンデイハイクは日帰りであるが、場合によっては、それ以上でも認められることもある。その判断は、P.W.審議会上に委ねる。
- 2 : 1回生のワンデイハイクへの参加は、新入生トレーニング山行以前でも認める。
- 3 : リーダー資格、サブリーダー条件、欠員等については、P.W.、行事と同じくする。

(4) リーダー資格及びサブリーダー条件に関して

リーダー資格は、リーダー審議会の行う審議を受けた後に与えられる。

<リーダー資格及び、サブリーダー条件に関する規定>

- 1: 1回生で一連の審議を受けた者は、夏合宿以降、山行以外のリーダーとなりうる。この場合、リーダー経験者がサブリーダーとなる必要がある。
- 2: 夏山で初めてリーダーとなる者は、3回生以上の山行リーダー経験者をサブリーダーにする必要がある。
- 3: 雪山においては3回生以上の冬山リーダー経験者をサブリーダーとする必要がある。
- 4: 川下りなど、山行以外の知識、技術を要するP.W.ではサブリーダーにそれらの経験者を必要とする。
- 5: ロードなど山行以外の活動においても、サブリーダーはリーダー経験を必要とする。

(5) 運営機関

1: 総会

総会は全部員で構成される部の最高決定機関である。

2: 代表会

メンバーは、各学年ミーティング議長、主将、副将、リーダー会議長、P.W.審議会議長を基本とするが、必要に応じて関係部員の参加が望まれる。ここでは、各学年ミーティングで話し合われた内容のうち、総会を召集するに及ばない内容、日程の都合等で総会が開かれない場合などについて話し合いがもたれ、場合によっては総会に代わる決定権をもつ。

3: 各学年ミーティング

部の運営に関することについて話し合いが必要な場合、各学年のミーティング議長の召集によって開かれる。

4: リーダー会 (L会)

リーダー会は年間行事の審議機関であり、前期(4-9月)は2-4回生、後期(10-3月)は1-3回生によって構成される。

(6) 欠員

欠員とはパーティーにおいて欠くことの出来ない最低限度の人員をさす。

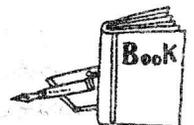
<欠員(不可欠員)について>

- 1: 山行における欠員は原則として5名とする。その内訳はリーダー、サブリーダー、そして医療審議を受けた上回生を含み、かつそれ以外2人いるわけである。
- 2: リーダー、サブリーダー、そして医療審議を受けた上回生のうち2人が事故者に付き添い、残る1名が連絡員、もしくは残りのパーティーを指揮する。但しこれは、あくまで事故者が1名の時の、しかも基本的なもので、事故の状態などによってはリーダーの臨機応変な判断に委ねられる。
- 3: 山行以外の活動の欠員については、その都度検討が成される。山行かそうでないかの判断はP.W.審議会、リーダー会に委ねる。
- 4: 医療審議についてはリーダー審議会に委ねる。

(7) 個人山行

個人山行とは、部の、また学生係の審議、許可を受けずに山行にでかけるものである。

(山岳会等においてはこれにあたらぬ) 事故にあった時、その責任を個人で負いきれず、部全体に迷惑がかかることを考えると好ましくない。が、山行経験を積むことは、いうまでもなく大切なことであり、個人山行を禁じることはそれを閉ざすことにもなりえる。以上により、本年度も禁止しないことにする。が、もちろん事前に部、または他の部員に連絡し、計画書等を提出することは最低限のマナーであろう。



(8) 備考

この運営方針に直接の規定がないものについて判断の必要が生じた場合には、これまでの部の慣習または一般的に適当であると考慮される基準について判断が下される。

<連絡機関>

1: 山行計画書には、確実な連絡体系を確保するため、必ず以下の連絡先を明記しなければならない。

- パーティーメンバー宅、及びその実家
- 大学学生部
- 顧問教官宅
- 現役部員連絡先2名宅

2: 現役部員連絡先の2名は、他りの全部員への連絡体系(連絡網)を確認、把握する。またその2名は、いついかなる時間帯でも連絡を受けられるような姿勢であることが望ましい。

<自家用車を使用した山行(車山行)について>

P.W.や行事の交通手段として、自家用車を使用することは、交通事故、運転者の負担を考えると好ましくない。しかし、時間的に制約されている場合などでは、公共の交通機関を使うことが難しいと思われる。よって安全面からも、部として次のように定める。

- 1: 山行で自家用車を使用して起きた事故に関して、基本的に部は責任を負わない。
- 2: 各パーティーは、自家用車を使用する際、走行距離1kmにつき25円を基準とする謝礼を運転者に支払わなくてはならない。
- 3: 山行リーダーは自家用車を使用する際、運転者の精神的、肉体的負担を考慮に入れて、計画をたてなければならない。また、運転者に対して、事前に説明を行わなければならない。
- 4: 車の所有者は、自家用車の使用を強制されない。



94年度行事及びP. W.

- *赤谷山ワンデイハイク 11/4-5
馬場島-ブナクラ峠-赤谷山-馬場島
L浅野 SL佐川 宮本 吉原 阪本
- *初冬大笠山トレーニングPW 11/12-13
旧桂集落-前及^ア-^イ-大笠山-旧桂集落
L新堀 SL藤巻 福田 吉原 佐川 ミリアム
- *冬合宿 荒島岳 12/24-27
登山口-小荒島岳-シャクナゲ平-荒島岳
-シャクナゲ平-勝原スキー場-勝原駅
CL山本 SCL山口 (含む3年8名 2年14名
1年8名 前田顧問)
- *策ヶ岳PW 1/7-9
金沢-身延-^ア馬場-^イ布引山-策ヶ岳
-馬場-身延-金沢
L金吉 SL石川 田中 友野 宮本
- *春合宿偵察 3/10-11
金沢-神城-五竜遠見テレキャピ山麓駅-
地藏の頭^ア-背髪-地藏の頭-神城-金沢
L柴田 SL山口 新堀 藤巻 福田
- *春合宿 遠見尾根 3/20-23
金沢-神城-テレキャピ山麓駅-地藏の頭
-小遠見山-大遠見山-白岳-地藏の頭
-神城-金沢
L柴田 SCL山口 (3年7名 2年13名 1年5
名 計25名)
- *大笠山^ア策ヶ岳PW 3/25-4/2
金沢-セイモア-奈良岳手前-沈澱-赤摩
木古山-沈澱-赤摩木古山越えた鞍部-
沈澱-タカンボウ山-西赤尾
L石川 SL田中 小泉 佐川 新堀 藤巻
- *1. 2年山行
<南紀ロード 3/28-31 >
金沢-^ア紀伊勝浦-滝前-太地駅-^イグリー
ンピア南紀-太地駅-串本駅-^イ潮岬キャン
プ場-串本駅
L正善 SL橋本 ミリアム、西馬

<犀奥 高尾山・吉次山 3/15-17 >
兼六園下-芝原-△吉次山-△奥高尾山-
高尾山-白雲楼ホテル-兼六園下
L宇根 SL佐川 小林 小泉 石谷

<南伊豆ロード 3/28-31 >
金沢-浜松-△今井浜海岸-白浜-△吉佐美
-タライ岬-石廊崎灯台
L友野 SL牧原 吉原 西田 川本 阪本

<八ヶ岳 3/28-31 >
金沢-茅野駅-洪の湯-△黒百合ヒュッテ-
東天狗岳-根石岳-夏沢峠-硫黄岳-赤岳鉦
泉△-美濃戸-茅野駅
L宮本 SL金吉 浅野 小西 岩倉

95年度行事

- *新歓山行 医王山 4/22-23
CL宇根 (含む3年14名 2年8名 1年8名)
- *新トレ偵察 高三郎 5/6-7
金沢大学-犀川ダム-△BH-旧道入口-
ザック置き場-前高三郎山-高三郎-BH
犀川ダム-大学
CL橋本 CSL金吉 (含む3年6名 2年9名)
- *新トレ山行 高三郎 5/20-22
大学-駒帰-犀川ダム-△BH-高三郎-
△BH-犀川ダム-駒帰-兼六園下
CL橋本 SCL金吉 (含む3年14名 2年10名
1年4名)
- *雪上訓練合宿 5/27-28
金沢-立山駅-雷鳥平-剣沢小屋△-雷鳥平
-立山駅
CL浅野 CSL金吉 (含む3年9名 2年2名
1年1名)



夏合宿

今年は4パーティー出ることになりました。

- *北海道パーティー 6泊7日 8月上旬
L牧原 SL宮本 小林 吉原 老田 川本
上田 島田 木下 小川
十勝岳温泉-上ホロカメットク-十勝岳-
オプタテシケ山-トムラウシ山-忠別岳-
白雲岳-旭岳-黒岳-層雲峡
・第1回トレーニング山行 6/24-25
富士写ヶ岳 L小林 SL牧原
・第2回トレーニング山行 7月下旬
2泊3日 L老田 市ノ瀬-別山-
南竜-御前峰-別当出合
- *北アルプスパティー 7泊8日 8月上旬
L正善 SL橋本 浅野 小西 後藤 掛布
中野 村井
立山室堂-雷鳥平-剣岳-雄山-浄土山-
五色ヶ原-薬師岳-黒部五郎岳-三保蓮華岳
-双六岳-槍ヶ岳-新穂高温泉
・第1回トレーニング山行 6/17-18
口三方岳 L正善 SL橋本
・第2回トレーニング山行 7月下旬
2泊3日 L小西 別当出合-南竜-御前峰
-大汝峰-中宮道-中宮温泉
- *南アルプス北部パーティー 8泊9日 8月上旬
L友野 SL金吉 西馬 西田 阪本 ミリアム
山崎 加藤
北沢峠-甲斐駒ヶ岳-仙丈丈-北丈-間ノ岳
⇔農鳥岳-北荒川岳-塩見岳-三伏峠-塩川
・第1回トレーニング山行 6/24-25
大笠山 L金吉 SL友野
・第2回トレーニング山行 7月下旬
2泊3日 L西田 別当出合-南竜-御前峰
-大汝峰-加賀禪定道-一里野

*南アルプス深南部パーティー

10泊11日 8月上旬

L 佐川 SL 宇根 高石 三浦 小泉 岩倉
黒須 高岩 前川

井川-大無間山-光岳-池口岳-黒沢山-
黒法師岳-蕎麦粒山-沢口山-寸又峡温泉

・第1回トレーニング山行 7/1-2

吉次山・高尾山 L三浦 SL佐川

・第2回トレーニング山行 7月下旬

3泊4日 L岩倉 越後三山

その他の予定

*北陸三県合同ワンデリング 8/23-25
冠岳・浄法寺山 (主宰 福井工業大学)

*小屋作業及び月見の宴 9/21-24

CL正善

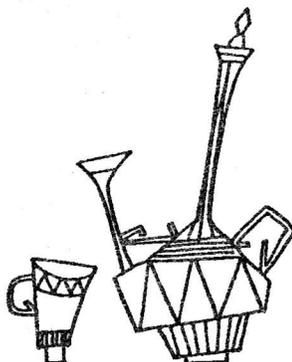
*冬合宿 12月下旬

*四回生追い出しコンパ 1月下旬

*春合宿 3月

*1、2年生山行 3月-4月

現役部員名簿



*37期 4回生

福田 武志	金沢市天神町2-2-42	22-3240 (呼)
文-史	京都府京都市山科区勸修寺柴山8-258	075-592-8534
山口 陽一	金沢市小立野3-2-21森ハイツ203	22-4844 (呼)
工-機	静岡県富士市今宮620-16	0545-21-1077
柴田 祐介	金沢市田上1-16TTハイム90-101	32-8547
経	愛知県西春日井郡西枇杷島町辰新田65	052-501-2203
戸田 良和	金沢市田井町18-263OM-1 203	33-0776
理-物理	愛知県額田郡幸田町深溝下山村12-1	0564-62-5719
新堀 由佳	金沢市旭町3-12-5ハイツIKKOH 2 103	34-3121
文-行	富山県富山市本郷町五区27- 6	0764-23-8669
藤牧 康子	金沢市旭町2-6-26AYコーポ103	32-8048
文-史	長野県長野市川中島町原1245-6	0262-93-2337
山本 英男	金沢市小立野1-27-17 ドミール小立野102	23-7384
工-機	神奈川県横須賀市公郷4-65-18	0468-53-5498
若山 悟	金沢市旭町3-9-1 アメニティ930	32-9513
理-数	石川県輪島市小伊勢町下山下136-5	0768-22-6502

編集後記

猛暑の昨年とうってかわり、冷夏の予報が出ています。今年はどうな夏山になるでしょうか。

おかげ様で、多くのOBの情報が載る会報になってきました。この上半期例年になくニュースがあふれ、多くの方々が災難に巻き込まれました。誰もがこれまでを振り返り、これからを考える機会となったようです。この会報もそんな時代の波に乗り、誌面で情報を交換し、考えていけるものになってくれれば一ひたすら、皆様からの返信と誌面参加をお待ちしています。

なかなか具体的な対策が講じられない遭難対策。今回は3期高島さんとその友人の寺崎さんのご厚意で、貴重な遭難記を載せることができました。まずは遭難<防止>対策ということで、生々しい記録を味わって下さい。

表紙イラストは21期竹中 敏さんにお願ひしました。

秋の月見の宴へのご参加を、心よりお待ち申し上げております。

(事務局長 舟田 節子)

OB会報「やまざと」 95夏号 (3号)

発行日	平成7年7月	
発行者	大島 良治	金沢大学ワンダーフォーゲル部OB会
編集責任者	舟田 節子	事務局 金沢市橋場町10-49
印刷	中川 晃成	☎0762-22-9288